

学会報告

地域漁業学会第48回大会 (福井県小浜大会)

竹ノ内 徳人

本学会は、1959年に九州大学で発足した西日本漁業経済学会を前身とし、近年の日本漁業の諸問題に対応するために1995年に改組・改称した歴史ある学会である。

さて同学会の第48回大会が2006年11月3、4日の両日、福井県立大学小浜キャンパス（福井県小浜市）において開催された。本大会初日前半に個別報告が3会場に分かれ行われた。第1会場は「京都府ズワイガニ保護礁における追加的経済効果の試算」など8報告、第2会場は「マーシャル諸島共和国の沿岸漁業構造と漁家経営」など9報告、第3会場は「島根県の漁協系統合併について」など8報告、計25本の報告であった。

初日後半の地域交流ミニシンポジウム、2日目のシンポジウムは、やはり学会のメインイベントとして強い印象が残った。ミニシンポは、地域固有の問題を討議する場として当学会の特徴の一つとなっている。今回は「地域水産業と食育について考える－食育先進地域・小浜市の事例から学ぶこと－」（司会：若林良和（愛媛大学）、林紀代美（金沢大学）、阿部覚（愛媛大学大学院））というテーマで行われた。本テーマの解題は、林氏より（特に農業で）食育への政策・民意の高まりがあることを背景に、①食育先進地・小浜市の小学校や行政の取り組み、②水産物での食育活動の可能性と課題、③水産業の食育への位置づけ・役割を明らかにしようとした。

第一報告は、地元関係者として陣頭指揮にたった高島賢氏から「小浜市の食育が目指すもの」（元小浜市食のまちづくり課課長、現農林水産省経営局経営政策課）として、全国初の「食のまちづくり条例」制定の経緯、地場産農水産物を活用した給食の取り組みなどを報告した。第二報告は、「小浜市立田島小

学校の取り組み－水産物を用いた学校給食とPTA行事－」としてVTR映像にコメントを差込む形で大上伸幸氏（小浜市立田島小学校教諭）、山下徹氏（前田島小学校PTA会長、現福井県立小浜水産高校教諭）、浜家直澄氏（田島地区定置網漁業者・民宿経営）が報告した。第三報告は、阿部覚氏（愛媛大学大学院）から「愛媛県愛南町における「ぎょしょく教育」の実践報告」として、「魚触、魚色、魚殖、魚職、魚食」などをキーワードにした現地小学校での取り組みについて報告した。

総合討論冒頭では、「食育」概念の多義・多面性から報告者とフロアのギャップが散見されたが、報告者コメントや事例への理解が深まるとともに地域水産業として積極的に支援し、取り組んでいくべきというフロアからのコメントが印象的であった。

翌2日目のシンポジウム「日本海漁業の現段階と地域産業」（座長：島秀典（鹿児島大学）、山尾政博（広島大学））では、第一報告が本シンポテーマの設定者である加藤辰夫氏（福井県立大学）から「日本海の漁業と地域産業」としてテーマ解題も含めて報告した。第二報告は「日本海の水産資源と漁場利用－ベニズワイガニかご漁業の漁場利用と資源動向－」（養松郁子、日本海区水産研究所）、第三報告は「水産物のブランド化と地域振興」（波積真理、熊本学園大学）、第四報告は「若狭の地域産業と食のまちづくり」（上野清治、小浜海産物社長）となった。

総合討論では、漁獲量減少、担い手の高齢化などを背景に、やはり産地の競争力を高めるためのブランド化について熱心な議論が展開された。質を求める消費者の食への動向がブランドを支え、地域ブランドには産地と消費者の交流ビジネスの展開が不可欠であり、地域関係者の協働が重要との認識が高まった。